

お知らせ

記者発表資料 平成19年2月6日

同時提供先

島根県県政記者会、松江市政記者クラブ、出雲市政記者クラブ

第五回 斐伊川流域の水辺を考える懇談会の開催について

斐伊川流域の水辺の地域づくりや、水辺景観のあり方などについて、有識者の方にご議論いただくため、平成17年3月3日に「斐伊川流域の水辺を考える懇談会」を設立しました。これまで4回にわたり宍道湖・大橋川周辺の水辺を対象に懇談会を開催したところです。このたび、中間取りまとめに向けたご議論をして頂くため、第5回の懇談会を以下のとおり開催します。

1. 日 時 : 平成19年2月13日(火) 10:00~12:00
2. 場 所 : 島根県市町村振興センター(タウンプラザしまね)6階 大会議室
3. 取 材 : 報道関係者の傍聴は可能です。

これまでの懇談会の概要、資料は、出雲河川事務所ホームページでご確認いただけます。

<http://www.izumokasen-mlit.go.jp/04mizube/kondankai/kondankai.html>

参考資料1 設立趣旨及び委員名簿

国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所

問い合わせ先

国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所

電話番号 0853-21-1850

(担当) 副所長 土江 清司

調査設計課長 水草 浩一

斐伊川流域の水辺を考える懇談会

【要旨】

斐伊川流域の歴史は、洪水防御と新田開発、用水確保、舟運の発展など斐伊川の変遷とともにあり、沿川の人々の暮らしは、斐伊川のもたらす恵みを楽しみながら発展してきた。流域の暮らしは今も斐伊川と密接なかかわりを持っており、これからの流域における地域づくりを考えるに際しては、この斐伊川の水や自然、景観などどう捉え、どう向き合っていくのかが大きなテーマとなる。

斐伊川流域の中でも、美しい景観を保ち、地域のシンボルとして愛されている宍道湖は、島根県を代表する観光資源であり、近年も斐川なぎさ公園、白潟公園、岸公園などの湖畔公園、水辺を活かした県立美術館や宍道湖ネイチャーランドの整備、堀川遊覧船が運航する松江堀川の導水事業など、地域づくりへの活用が進んでいる。さらに、昨年度は後世に残すべき風景として宍道湖水辺八景が新たに選定されるなど、水辺と暮らしのあり方を考える多くの材料を提供している。

経済の衰退や加速する少子高齢化などの課題を克服し、斐伊川流域が活力ある地域を創造してゆくには、地域への愛着を取り戻し、地域資源をうまく活用していく視点と努力が欠かせない。

そこで、宍道湖周辺の取り組みなどをモデルケースとし、斐伊川流域の地域づくりや水辺景観のあり方などについて提言をいただくことを目的に、「斐伊川流域の水辺を考える懇談会」を設立し、将来にわたる斐伊川流域発展の一助とする。

【委員名簿】

・座長

島根県立島根女子短期大学	名誉教授	藤岡 大拙
--------------	------	-------

・委員

山陰中央新報社	相談役	木幡 修介
日本旅行業協会島根地区	前会長	塩飽 浩一郎
島根県経済同友会	代表幹事	田江 泰彦
ホシザキグリーン財団企画	交流課長	野津 登美子
松江市教育委員会	教育長	福島 律子
島根県商工会議所連合会	会頭	丸 磐根
風景研究室	代表	吉田 薫

敬称略、五十音順